

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の運動会や中学生との交流などしている。近所の方から野菜などおすそわけももらっている。 ボランティアの方にも来てもらっている。	管理者はホームの明確な理念の下、毎月第1月曜日に開催されるホーム会議やカンファレンス、日々の申し送り時に理念の「その人らしく暮らす家」と「誰のために、誰のためのサービスか」を、職員に具体的に話し、ホームの方針の共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草取り等、参加して交流している。 地域の行事、お祭り、運動会に参加している。	事業所所在地が二つの地区に跨っているため、行政区に運営に関する行事はお願いしている。もう一つの区からは催事等に声をかけていただき参加している。中学生が草取りボランティアに来訪し、終了後は利用者と交流している。保育園のお母さん方のコーラスの会の訪問があり、1階・2階の各ユニットに別れ、懐かしい歌を披露していただいている。地域の人々との交流が継続して行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、現在の活動内容や利用者の状況を伝えている。参加者からの意見もきいている。	運営推進会議には家族、区長・副区長、二つの地区の民生委員、社協生活支援員、地域包括支援センター職員、広域連合職員等、幅広く参加いただき、定期的に開催している。ホームの現状報告をし参加者から質問や意見、要望を受け、双方向的な会議が行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は必要に応じて連絡をとっている。	市や広域連合職員とは良好な関係が築かれている。介護認定更新時、来訪する調査員に利用者の実情やケアサービスの取り組み等の情報提供が行なわれている。家族からの依頼で区分変更の代行も行なっている。また、広域ケアマネージャー会議や介護事業者会議等にも出席し、協働体制をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の施錠はしていない。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 入居者の状況に応じて、家族との相談の上、やむおえず行なっている方もいる。	職員は研修やホーム会議等で身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケアの実践に努めている。利用者が帰宅願望に陥ったり外出しそうな気配を察知した時には話をしたり、外出に同行するなど気分転換を促し、安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支えるよう支援している。	

グループホーム・せせらぎの家・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアについてカンファレンスで話し合い、確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者や家族と話し合いをし、理解・納得を得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には、意見・要望などを出してもらえそうな関係作りに努めている。	利用者の高齢化等に伴い思いや意見を伝えられない方が増えているが、時間をかけて寄り添い聴くようにしている。ケアプラン変更の折には家族に訪訪していただき、意見や要望を伺っている。毎年行なわれる家族との食事会は恒例になっており、職員との意思疎通を図る良い機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、職員の個人面談を行なっている。	ホーム会議等の折に管理者は資格取得についての話をしたり、職員の意見や要望を組み上げ運営に反映している。また職員毎の年間目標が立てられ、ふり返りの場として自己評価を実施し、各ユニットの主任との面談が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々職場に来ており、業務などの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会が少なかったが、行った際にはホーム会で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カンファレンスを行う機会はあるが出席は少なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や利用している事業所に訪問し、本人や家族に会って話を聞き、ホームにも見学に来て頂き、職員との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも面談し、不安なことを聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族と見学に来ていただき、信頼関係を築きながら必要な支援をつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前に比べ、昔の生活習慣など教えて頂く事は減ってきている。 職員側から働きかける様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には行事への参加を呼びかけたり、本人の状況を伝えている。 職員だけで対応がむずかしい時は、家族に強力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出掛けられない利用者が多くなってきている。 馴染みのある人に面会に来てもらうようにしている。馴染みのある美容院に出掛けている。	年何回となく訪れるボランティアのメンバーと顔なじみとなり、訪問時には利用者のうれしい顔が垣間見られるという。馴染の美容院へ職員がお連れしたり、美容院の方に送迎をしていただきカットなどを行っている利用者もいる。また、長年利用している保養所へ家族と出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまく行くように、座る位置を配慮している。 トラブルにならない様に、早めに職員が対応している。		

グループホーム・せせらぎの家・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方に支援状況等を手渡すと共に、情報交換を行い、馴染みの職員がキカイを作って訪問に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉に対して、言葉だけに振り回されずに言葉の裏をくみとったり、言葉の発することができない方は表情など読み取りながら対応している。	従来からのセンター方式に加え「ひもときシート」にも取組みは始めている。日頃の寄り添うケアの中で、家族からの聞き取りや利用後の心身の状態等も把握し、利用者の思いや意向を言葉や表情から推し量っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の会話や、家族からの情報から暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の思いや意見を聞き、ケアプランに反映している。	職員は一人から二人の利用者を担当している。ケアプランの見直し時には担当職員が関わり計画作成担当者とともに検討しているが、各ユニットの利用者の目標等は定例会議などですべての職員が把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入できているが、ケアプランに沿った記録が十分でないため、実践へ生かされてない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎や、付き添いの支援を行なっている。		

グループホーム・せせらぎの家・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に介護相談員の方来たり、コーラス、サックス、書道のボランティアが来て参加している。又、出張美容院の利用や地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の理事長が主治医の利用者は定期的に往診を受けている。又、入居前からかかりつけ医のある入居者は引き続き通院してもらっている。必要な時には家族の同意の上、受診している。	在宅時のかかりつけ医での受診が継続されている。医師でもある法人の理事長の月2回の往診や歯科医の往診、皮膚科医の往診もあり、地元医師との協力体制は磐石なものになっている。ホームには看護師が3名在籍しており、医師との連携で適切な医療支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の体調の変化や表情をみながら、早期発見に努めている。変化がある時には、看護職に報告し、医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報を医療機関に提供して、職員も病院に見舞うようにしている。病院と家族との情報交換をしながら、グループホームとしての支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族と情報交換しながら終末期にむけた取り組みを行なっている。又、主治医から家族へ状況の説明をしながら家族への思いを受け止めてグループホームでの支援につなげている。	「住み慣れた環境で」との利用者や家族の意向に応じ看取りの経験は多く、その体制作りに努力している。3人の看護師がいるため、状態の変化にもスムーズに対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、年に1回の応急手当の勉強会を実施している。夜勤時の緊急マニュアルを整備して職員が対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議で定期的に話し合い、マニュアルの作成を行なっている。避難訓練を行ない、避難経路の確認や消火器の使い方を訓練している。自治体や運営推進会議で協力してもらえる様に話し合っている。避難経路を新設した。	非常時の緊急避難用に2階に広いベランダが設置され利用者の安全確保のための対応が強化された。地域に設置されている防災行政無線が聞き取りにくいと、屋内に茅野市防災ラジオを設置している。運営推進会議では地元区長はじめ、委員から避難方法などについてアドバイスをいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげなく分かりやすい言葉で話しかけている。自己決定できる配慮もしている。	主に男性は苗字で女性はお名前で声掛けし、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。利用者の人格の尊重やプライバシー確保に関して職員の言動が適切でないと思われるような場合には管理者が注意を促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や反応を注意深くキャッチし、希望が反映できる様に努めている。 自己決定できる人には、希望に沿える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行なっている。しかし、ドライブなどの外出回数は減っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる人には、衣類を決めてもらっている。自己決定できない人には、職員が支援している。美容院へ行ける人は馴染みの所へ行っている。他の方は、出張カットを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をとるようにしている。表情などから好みを把握し、メニューに取り入れる様に献立作りを考えてもらっている。	ユニットでは、週一回食事作り(昼食)を外部の方をお願いしている。職員は美味しく食べるために工夫に努め、利用者と同じテーブルと一緒に食べながら料理への反応や意見を聞き献立の見直しに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に合わせた食事作りをしている。 必要に応じて水分量をチェックしている。 入居者の嗜好に合わせてメニューを出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方は毎食後声を掛け、洗面所で歯磨きを行ったり、口腔ケアの支援をしている。 週2回は義歯洗浄剤を使用している。		

グループホーム・せせらぎの家・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々のパターンを把握し、その人に合わせた対応をしている。失禁時の対応は自尊心を傷つけない様に配慮している。	一人ひとりの排泄の特性を把握していることから、できるだけトイレでの排泄をするように支援している。自立されている利用者が約五分の一ほどいるがリハビリパンツを使用している方も多い。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。利用者が居間・食堂などで 失敗した時 にはトイレや居室にさりげなく誘導し自尊心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき、飲食物を工夫して自然排便できる様に心掛けている。職員間で話し合い、できる人には散歩など、身体を動かす意識づけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表をつけて、タイミングを見ながら声掛けをし、入浴している。一人ひとりの体調に合わせて、入浴の仕方に配慮している。	入浴は利用者の体調を確認し、一人ひとりの気持ちや生活習慣に合わせ回数・方法など臨機に変えている。入浴を拒まれる利用者には無理強いすることなく、声掛けを工夫したり職員を変え、自然な流れで入浴へとつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて、日中も休息をとってもらえる様配慮している。一人ひとりの入眠に合わせて、寄り添ったり、飲み物を飲んでもらったり、ゆったり眠りにつける様、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時は、副作用や内服の仕方を確認し、職員一人ひとりが服薬の支援をし、状態や症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の行事に声掛けてもらい、参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて散歩に出掛けたり、あいた時間に外気に触れる機会を作っている。行事に声を掛けて頂き、外出の機会を作って出掛けている。	利用者の高齢化により車椅子利用の方も増えているため車椅子が乗る大型レンタカーを借り、ぶどう狩りなどにでかけている。緊急避難用の広いベランダが設けられ天気の良い日にはそのベランダで外気浴などを行っている。	

グループホーム・せせらぎの家・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、職員が行なっている。買い物に行ける機会は減っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望がある時は、電話をかけている。又、家族から電話があった時は、取り継ぎをしている。家族から届いた手紙などは、ご本人に見てもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの湿度や室温、TVの音に配慮しながら居心地の良い空間作り心掛けています。	共用空間の壁には利用者が書いた習字の作品やホームでの暮らしのスナップ写真などが飾られている。窓からは庭の緑が垣間見られ、キッチンを通して奥に事務所のある配置になっているため利用者の様子が把握でき、利用者の方からも職員が見えるため安心感の持てる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事のテーブル席で落ち着いて過ごせる方もいる。又、テーブルに新聞を置いて、自由に読んでいただける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを置いている。又、使い慣れた布団や枕を持って来て、使用している。	各居室には造りつけの収納スペースがあり、使いやすく工夫されている。タンスの上に位牌を置き花がそえられた居室などもあり、馴染の品を置いたり飾ったりして、その人らしく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを表示したり、居室が分かる様に工夫している。夜間トイレに出て来られる方への灯りの配慮に気をつけている。		